

## 「平成 29 年度 全国学力・学習状況調査および佐賀県学習状況調査」の結果について

太良町立大浦小学校

4月に、文部科学省および佐賀県による学力・学習状況調査が実施されました。これは、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証して改善を図ることを目的としています。本校においては、教科の正答率はもちろんのこと、児童質問紙についても分析結果を教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることに力を入れ、教育の継続的な検証改善を行っております。

本校児童の学力・学習状況の傾向を分析して、学力向上について対応策をまとめましたので、その概要についてお知らせいたします。

### 1 全国学力・学習状況調査における全国、県平均と本校の比較

■ 調査対象学年 小学 6 年生

■ 調査実施教科 国語A、国語B、算数A、算数B

(Aは、主として「知識」に関する問題、Bは、主として「活用」に関する問題)

■ 結果

- ・ 国語、算数の主として「知識」に関する問題、主として「活用」に関する問題ともに、全国および県の正答率を下回っている。
- ・ 観点別に見ると、国語Aの「書く能力」では、全国平均、県平均を大きく上回っている。また、算数Bの「数量や図形についての知識・理解」でも、全国平均、県平均を上回っている。

### 2 佐賀県学力・学習状況調査における県平均と本校の比較

■ 調査対象学年 小学 5 年生

■ 調査実施教科 国語、算数

■ 結果

- ・ 国語は県の正答率を大きく上回り、算数は、県平均を若干下回っている。

### 3 生活習慣や学習環境に関する調査の分析(抜粋)

本調査では、児童の生活習慣や学習環境についても調査が行われました。多岐にわたる項目について調査が行われましたが、本校の教育目標および教育の重点に関わる内容を抜粋して紹介します。(単位は%)

■ 調査対象学年 小学 5 年生、小学 6 年生

(設問)「朝食を毎日食べていますか」

	5 年生		6 年生	
	食べている	どちらかといえば、 食べている	食べている	どちらかといえば、 食べている
本校	61.1	27.8	89.7	6.9
県	82.7	11.0	85.5	9.6

【考察】 5 年生では、県の割合を下回り、6 年生では、やや上回っています。朝食は、強い体をつくると同時に、一日の生活のリズムを整える上でも大変重要であると考えます。

(設問)「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)

5年生	3時間以上	2時間以上、3時間未満	1時間以上、2時間未満	30分以上、1時間未満	30分より少ない	全くしない
本校	5.6	13.9	38.9	36.1	5.6	0.0
県	7.3	17.0	36.1	27.6	9.0	3.0

6年生	3時間以上	2時間以上、3時間未満	1時間以上、2時間未満	30分以上、1時間未満	30分より少ない	全くしない
本校	0.0	20.7	48.3	20.7	6.9	3.4
県	8.2	14.6	39.8	25.9	8.1	3.3

【考察】 5年生は、「1時間以上 2時間未満」で県の割合を上回っています。一方では「2時間以上」の児童の割合が少なく「30分以上 1時間未満」の児童の割合が多いことは課題であると考えます。6年生は「3時間以上」学習する児童がいないものの、「2時間以上 3時間未満」の児童が20.7%、「1時間以上 2時間未満」の児童が48.3%と県の割合を上回っています。これは、全体の約7割(=20名)に当たります。本校では家庭学習の時間を「10分×学年+20分」としています。今後とも家庭での協力をお願いします。

(設問)「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」

	5年生		6年生	
	そう思う	どちらかといえば、そう思う	そう思う	どちらかといえば、そう思う
本校	19.4	38.9	27.6	34.5
県	27.7	33.7	25.9	32.1

【考察】 本校の校内研究は、研究主題を「自らを高め、学びを活かす児童の育成」～確実な知識・技能の習得と適切な活用場面の設定を通して～と定め、取り組んでいます。授業では対話活動を通じた思考力・表現力・判断力の育成を図っていますが、県平均と比べると「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすること」を苦手と感じる児童が若干多いようです。授業の組立、発問、表現力向上の手立て等を工夫することによって力を伸ばすよう、さらに研究を進めていきます。

(設問)「今住んでいる地域の行事に参加していますか」

	5年生		6年生	
	参加している	どちらかといえば、参加している	参加している	どちらかといえば、参加している
本校	61.1	25.0	75.9	17.2
県	46.5	28.6	46.3	26.6

【考察】 5年生・6年生ともに、「地域の行事に参加している」児童が大変多いという結果です。太良町の地域教育力をよく表している結果だと考えます。今後も、ご家庭や地域と連携・協力して、

児童の健やかな成長のための取り組みを推進していきます。

#### 4 今後の取り組み

本調査の結果を受け、本校では学力向上研修会を実施して従来から取り組んできた実践を継続・発展させることを確認するとともに、改善策や新規取組について各担任が具体策を打ち出して学習状況の改善を図っていくことになりました。（太字は、改善あるいは新規の重点的な取組）

取り組みの概要は、以下の通りです。

##### I 授業づくり、指導方法の改善

###### (1) 学習規律の徹底

###### ① 授業における学習規律

- ・授業開始前の立腰
- ・発表の仕方や聞き方の共通理解

###### ② 確実な宿題の提出と学習用具準備

- ・週一回の学習用具確認と記名確認の徹底
- ・毎朝の宿題提出の確認とひこばえカードでの点検

###### (2) 意欲的な学習態度の育成

###### ① 意欲的な学習態度を引き出す授業の工夫

###### ② 思考力・表現力・判断力を高める指導の工夫（ペア対話や全体対話の推進）

###### (3) 指導力向上の取り組み

###### ① 個に応じた指導の工夫（学力・学習状況調査、NRT検査、Q-Uテスト結果や、これらの「バッテリーシート」の積極的な活用）

###### ② 授業のユニバーサルデザイン化や西部型授業を取り入れた授業研究

###### ③ ICT機器等を活用した授業の工夫

（デジタル教科書や NHK デジタル放送、タブレット型パソコンの導入など）

###### (4) 指導方法の改善・充実のための重点取組 ～今回の結果を受けて～

###### ① NRT 調査等を分析して児童の実態調査を行い、学年ごとに実態に合わせた改善計画を立て、実践する。計画は全学年分をまとめた一覧を配布し、机の上に置いて常に意識できるようにする。

###### ② 問題や板書を可視化する。絵や写真、図などを用いて、イメージできるようにする。

###### ③ 思考ツールを活用した板書、ワークシートを用いて、児童の思考を可視化させる。

###### ④ 自主学習への取り組みの推奨。校内に掲示スペースを設け、定期更新することで、賞賛の機会、全校児童への手本とさせる。

###### ⑤ 校内で設定した目標家庭学習時間達成のため、学年の実態に応じた自主学習のやり方を紹介、指導する。

###### ⑥ QU 調査、児童への心のアンケートを分析活用し、互いを認め尊重しあう学級経営を行う。児童との個別教育相談週間を設け、個々への対応も充実させる。

##### II 学習環境の改善・充実

###### (1) 豊かな学びのための改善・充実

###### ① 朝読書、読み聞かせの継続的实施

###### ② 計算タイムやすすくテストでの基礎基本の定着

###### ③ 長期休業中の補充学習及び放課後学習会の実施

④ 佐賀県文学賞や西日本ヤング川柳など各種募集への積極的な取り組み

(2) 家庭学習の定着充実を図るための取り組み

① 定期的な家庭学習時間の調査

② 自主学習ノートの取り組み

③ 小中連携による家庭学習充実の取り組み

本校では、児童一人一人がもつ個性や能力を引き出すために、発達段階や個に応じた指導の充実を図ることを基本としています。そして、学びを支える基礎・基本の確実な定着と学ぶ意欲を高める指導を通して学力向上を推進していきます。

本校の教育目標である「ひこばえの心もち、強く、かしこく、美しく生きる児童の育成を図る」には、家庭・地域のご理解とご協力は欠くことのできない重要な要素です。今後ともご支援をお願いいたします。